

匹見地域協議会（第5回）会議次第

日時 平成31年2月25日（月）14:00～

場所 匹見タウンホール 集会ホール

出席者

（委員）藤谷 一剣・齋藤 惟人・大谷 文男・西川 友史・大久保純子
溝田 洋子・村上 巴・河本 亮・齋藤 光・齋藤 幸士
（益田市）藤岡匹見総合支所長・藤井地域振興課長・田中地域振興課参事
齋藤分室長・藤本分室長・井上分室長・佐々木分室長

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 報告事項

（1）匹見峡温泉等に係る対応状況について

4. その他

次回開催 平成31年 月 日（ ） 時 分～

主催者名	匹見総合支所地域振興課
会 議 名	平成 30 年度 第 5 回 匹見地域協議会
開催日時	平成 31 年 2 月 25 日（月） 14 時 00 分～16 時 00 分
開催場所	益田市匹見タウンホール 集会ホール
出 席 者	・ 匹見地域協議会委員（8 名） ・ 匹見総合支所：藤岡支所長 地域振興課：藤井課長、田中参事 井上補佐、藤本補佐、佐々木補佐 大谷

【会長あいさつ】

が町民も温泉が急遽 1 月末をもって閉めるという発表を受けてバタバタしている内に温泉が閉まってから 25 日目を迎えている。地域協議会として何ができるのかと、温泉の再開に向かってどのような方法があるだろうかということを相談しながらというような趣旨で今日は開催させていただいた。

【報告事項】

（１）匹見峡温泉等に係る対応状況について <資料 1 地域振興課参事より説明>

- 1 月 23 日の（株）ひきみの臨時株主総会において 1 月末をもって指定管理業務を中止することが株主に説明された。
- 1 月 23 日に従業員への説明を行い、指定管理業務の中止と 1 月 31 日に解雇通知、解雇手当の支給、今後の対応について説明が行われた。
- 2 月 1 日には第 9 回取締役会が開催され、代表取締役の交代が行われた。
- 会社として 2 月 1 日以降指定管理業務は中止したが、会社の経理の残務整理や委託の引継ぎ等を行っている。
- この温泉の状況を受け、匹見地域にある温泉、匹見峡レストパーク、中央公園、わさび、木の駅等の資源を利用して魅力ある地域づくりと持続可能な地域づくり、そして産業振興等について本庁の関係部局が組織的に関わりながら、匹見地域の総合的な振興策について議論していく匹見地域の振興対策会議というのを本庁で立ち上げ、2 回の会議を開催している。
構成は副市長、政策企画局長、総務部長、産業経済部長、建設部長及び関係各課としては政策企画課、人口拡大課、産業支援センター、都市整備課、農林水産課、観光交流課、匹見総合支所となっている。
- また従業員の生活の安定を第一に、また地域経済への影響を最小限にとどめることも検討している。
- 匹見中央公園及び匹見峡レストパークについては当面は直営で運営することとし、中央公園

については3月1日から、匹見峡レストパークについては4月1日から運営をすることとしている。

レストパークについては宿泊部門のみ。温泉については再開に向けてすぐに動かせるようにできるだけ経費をかけないで維持管理をしている。

《質疑・意見》

- 会社としては債務の処理が終わるまでは残るのか。
 - ▷ 会社としては今の債権を整理したところで解散となると思われる。
- 匹見峡レストパークの売店は営業するのか。そこを拠点にして宿泊等の受付を行うのか。
 - ▷ 売店のある管理棟が事務所となる。
- 匹見峡レストパークと中央公園は、具体的にどのように直営で行うのか。
 - ▷ 業務委託できる組織があれば委託を行いたいところであるが、当面市で職員を雇用して運営していく。
- 再開に向けて匹見峡レストパークは、再開に向けて繋がる方向の中で運営した方が良いと思われる。すぐに匹見峡春祭りとか多くの人に訪れていただくと思うのでその人たちを落胆させないように。中央公園と連携を取ってこの閉めた形を残らないように活発に動くような方向を取っていただくように要望する。
 - ▷ そのあたりも含めて新しい組織も出来ないか相談もしている。匹見峡春祭りも継続して実施するよう計画されている。
- 会社は残務整理が終わったらなくなるという解釈でよいか。
 - ▷ 整理がついた段階でなくなる方向であると思われる。
 - ▷ 今日まで民間の方が主に経営をされてきたが、残務整理に向けて行政方の関わりというのが大きいということで行政側から1名ほど取締役を入れる。併せて代表取締役を交代して、市の方が中心になってこの会社の整理をしていくという考え方の元で役員を交代している。時期については明確となっていないが基本的にはそういう考え方のもとで役員交代をして、それが会社の方で決定されてきた。
- 地域振興対策会議は温泉を再開するという検討をする場と考えてよいか。
 - ▷ 温泉のことだけではなく、温泉も含めた地域振興の計画を立てていこうということで会議が設立されている。
- 温泉は施設の問題や従業員の問題があるので、早急に再開の検討を進めていく必要がある。中央公園もレストパークも温泉が無いと利用者は困る。3施設が連携する検討をするべき。またこのようになった原因をきちんと押さえなければ同じ轍を踏むこととなる。
 - ▷ 匹見地域全体の資源をいかに活用して匹見地域をどういう形で持続可能な地域とできるかということも全庁的にじっくり考えながら、かといって時間もないので早めに検討して再開へ向けて行きたいという形で今庁内の方で検討を始めている。
- 温泉の給湯関係は動かしていく必要があるので、内湯だけにしてでも運営することを職員もアイデアを出してもらいたい。
 - ▷ ボイラーの火は入っていないが、循環だけは行い、管が詰まらないよう対応はとっている。
- 温泉の備品については、協定書上市に帰属することとなっているのではないか。
- 車両関係は一切整理したのか。また備品台帳を確認したのか。
 - ▷ 指定管理料で購入したものは市に帰属することとなっている。
車両関係は整理されているが、その他のものについては残っており、そのままにもらえるよう協議をしている。
- 地域振興対策会議で今取り組んでいる内容は。
 - ▷ 地域のみなさんのご意見をいろいろ聞きながら温泉の活用なり、地域のみなさんの協力がどういう形でできるのかも含めて話を聞きながら、将来的に温泉はどのような活用ができるか、地域の拠点として活用方法はどのような形がいいのかということを意見も聞きながら一

緒に考えていきたい。

- 対応が遅い。市は危機感を持って具体的に対応を行うことはできないのか。

- ▷ 利用者数減少に対する指定管理料をはじめ、いろいろな課題に対して内々では整理をするというのはあるが、具体的にこれに対してどうしていくかというのが現時点では説明できる状況にはない。

早めに整理し状況の変化等があればまた地域協議会等でもお話をさせていただきたい。

- 匹見の温泉は施設規模に対して指定管理料が安い。適正な指定管理料を検討することが次の指定管理者を探す一番のポイントとなる。

- 指定管理料の見直しは検討したのか。

- ▷ 指定管理料の見直しに向けてはこの春からずっと内部で検討してきているが、結論に至らず、最終的に会社の方から1月末をもって指定管理の方を返すという形になった。

指定管理料については、美都の温泉も併せて十分本庁の方の観光交流課とそれぞれの支所が一緒になって庁内の議論を重ねてきた。

- 1月末に地域協議会委員等で市長に対し温泉の早期再開をお願いした。その後署名活動に取り組んでおり、集まった段階で市長及び議長に要望に行くこととしたい。

- 温泉を再開しても黒字となる要素は極めて厳しい。市においても市民も参画できる方法を一つの方法として考えてほしい。

- ▷ 基本は指定管理としているが、一方でその管理者が持続してもらわないといけないので、研究していきたい。

- 市も財政が厳しいので予算的な制約があり、指定管理者は大きい組織でないと無理だと思う。レストパークは宿泊だけでなく、食事も提供すべき。

- ▷ 食堂の中の備品はほとんど残っているので、検討していきたい。

- 特典付きの出資を募ることを検討してはいかがか。

- ▷ 可能性について検討する。

- 財産区の処分についての検討状況は。

- ▷ 小規模な面積の処分では赤字となる。匹見の財産であるので有効活用を検討していきたい。